小・中学校再編にかかる地区意見交換会（鶴見会場）

１ 日時　　令和８年９月３０日（水）　１９時～２０時３０分

２ 場所　　鶴見地域コミュニティセンター

３ 参加者　　３５人

４ 事務局　　都留教育長、神崎教育部長、御手洗教育総務課長、吉田学校教育課長
　　教育総務課職員　４人、学校教育課職員　２人

５ 次第

（１）開会

（２）教育長あいさつ

（３）教育部長あいさつ

（４）佐伯市立小・中学校再編（案）について
- 今回の説明会の趣旨とこれまでの経過
- 小・中学生の現状と今後の見通し
- 学校の再編に関するアンケート調査結果について
- 学校再編することのメリット・デメリット
- 適正な学校規模の考え方
- 小・中学校再編（案）
- 中学校再編後の学校規模
- 小学校再編後の学校規模
- 小・中学校再編までのスケジュール案

資料を基に上記の項目等について説明

（５）質疑応答

（６）意見交換

（７）閉会

6 質疑応答・意見交換の内容

（1）質疑応答

※個人が特定されるおそれのある発言等については、個人情報保護の観点から、一部を編集・省略して掲載しています。

発言者	発言内容
参加者	学校再編のメリットとして「子どもにかかる費用の保護者負担が小さくなる」と示されていますが、これは具体的にどのような費用のことを指しているのでしょうか。
事務局	主な例として修学旅行等の費用が挙げられます。小規模校が単独でバスや移動手段をチャーターする場合、1人あたりの負担額が大きくなりがちですが、一定の集団規模でまとまることで、児童・生徒1人あたりにかかる交通費等の保護者負担を軽減できるというメリットを想定しております。
参加者	「学校の再編に関するアンケート調査結果」についてですが、これは全体の数字だと思います。小規模校のみを対象とした集計結果のパーセンテージは出ているのでしょうか。
事務局	本日お配りしている別冊の参考資料に、各学校ごとの集計結果を記載しておりますので、そちらをご確認いただければと思います。
参加者	「学校の再編に関するアンケート調査結果」の自由記載欄についてですが、校舎の建て替えや老朽化に関する意見もあったと思いますが、具体的にどのような意見が出ていたのでしょうか。
事務局	アンケートの自由記載欄の詳細につきましては、本日の資料には掲載しておりませんが、今後ホームページ等で閲覧・公表できるよう検討したいと考えております。
参加者	校舎の老朽化や建て替えにかかる費用等を考慮した際、必ずしも「小規模校から大規模校へ集める」という一方向の進め方だけでなく、逆の視点もあってよいのではないかと考えております。例えば、比較的新しい校舎を活用して中心部から児童を運ぶスクールバスや通学のような発想は検討されなかっ

	たのでしょうか。また、米水津の間越地区などでは、通学に 1 時間近くを要することもあり、長距離通学の負担が非常に大きくなります。いきなり上堅田小や佐伯南中ではなく、まずは通学距離や地域も近い鶴見・米水津などの近隣校同士でまとまるような段階的な統合案は考えられなかったのでしょうか。
事務局	再編の組み合わせにつきましては、小学校は 1 学年 20 人以上、中学校は 1 学年 2 学級以上かつ 1 学級 20 人以上という適正規模を基準に検討いたしました。鶴見と米水津を合わせた場合、その基準に満たないため、今回のように上堅田小学校や佐伯南中学校へ統合する案となっております。なお、間越地区などからの通学時間につきましては、現状の試算では 1 時間以内で通学可能と見込んでおります。
参加者	課題のところで「スクールバス等」と書かれていますが、「等」ということは、スクールバスのほかにどのような交通手段を想定されているのでしょうか。
事務局	現在も佐伯市内で遠距離通学に対応している手段として、バスのほかにタクシーの運行がございます。利用人数が少ない地域にはタクシーを配車し、ある程度人数がまとまっている地域にはバスを運行することを想定しているため、「スクールバス等」と記載しております。
参加者	統合先とされている佐伯南中学校は敷地こそ嵩上げされていますが、学校に通じる道路が一番低い場所にあります。水門等の整備で排水は強化されていますが、集中豪雨の際には道路冠水の心配があります。また、通学路にある茶屋ヶ鼻橋は築 60 数年が経過しており、南海トラフ地震等の災害に対する安全性が非常に懸念されます。災害対策や通学路の安全を頭に入れた上で再編を考えていただきたいのですが、いかがでしょうか。
事務局	佐伯南中学校周辺につきましては、近年大雨による浸水で通学不能となった事例は把握しておりませんが、台風時等は休校措置をとるなどの対応をしております。災害対策や通学路インフラの詳細な検証につきましては、教育委員会としてもまだ詰め切れていない部分がございますので、いただいたご意見を持ち帰り、しっかり検討してまいります。
参加者	放課後児童クラブについてですが、再編後はどうなるのでしょうか。統合先の児童クラブが定員いっぱいで入れないといった事態にならないか心配で

	す。今後の対応についてどう考えていますか。
事務局	児童クラブにつきましては、担当課（こども福祉課）と協議を進めているところです。学校がなくなった地域の児童クラブが即座になくなるということは考えておりません。スクールバス等で現在の鶴見地域の児童クラブまで児童を送り届けるような運用も含め、検討しております。保護者の皆様がどちらの児童クラブを希望されるかといった点も踏まえ、今後詳細を詰めてまいります。
参加者	指定された統合先以外の学校（鶴谷中、城南中、佐伯小など）へ通う校区外通学は認められるのでしょうか。
事務局	指定校変更や校区外就学につきましては、現在も教育委員会で許可基準を定めております。今回の統廃合に伴い、その要件の見直しや改正が必要になるかどうかも含めて、今後検討・議論を進めてまいります。
参加者	環境の変化による心理的負担について懸念しています。多感な時期の統合となるため、いじめや不登校が心配です。現在、上堅田小や佐伯南中を含め、いじめや不登校の状況はどのようになっているのでしょうか。
事務局	具体的な数値等はお答えできませんが、教育委員会としては「いじめはどの学校でも起こり得るもの」と捉えております。また、不登校につきましても様々な要因があり、多様な選択肢の中で登校しないことを選んでいるお子さんも含め、どの学校にも存在し得るものと捉えております。
事務局	保護者の方がご心配されるのは当然のことだと思います。これまでの統合の際にも同様の懸念がございました。そのため、統合の１～２年前から対象校同士で合同授業や出会いの場を設ける交流事業を実施し、子ども同士が仲良くなってから統合を迎える取組を行ってまいります。
参加者	再編案を見て、数字ばかりが先行して子どもたちの姿が見えてこないと感じました。市政として「いつもこどもがまんなか」を掲げているのであれば、子どもたち自身の意見は聞いたのでしょうか。
事務局	子どもたちへのアンケート調査は行っておりません。
参加者	適正規模の考え方で「複式学級の解消」が挙げられていますが、市としては複式学級を良くないものと捉えているのでしょうか。

事務局	複式学級につきましては、現在市内７校で実施されており、担任が複数学年を行き来する「渡り」の授業や、児童が主体的に進めるガイド学習など、子どもたちが伸び伸びと成長している姿を把握しております。決して複式学級を否定しているわけではなく、その良さも十分に認識しております。
参加者	小規模校と大規模校での学力差について伺います。ネットなどで見ても鶴見中と佐伯南中で大きな差があるようには思えませんが、小学校を含めて学校規模による学力差はあるのでしょうか。
事務局	学力については年や環境によっても異なり一概には言えませんが、小規模校にはきめ細やかな指導の良さがあり、大規模校には切磋琢磨して学び合う良さがあります。学校規模の大小によって学力に差が生じているとは把握しておりません。
参加者	鶴見中学校の「鶴中ソーラン」のように、各校に受け継がれてきた伝統文化があります。再編された場合、それぞれの学校の伝統や文化はどのように引き継がれるのでしょうか。
事務局	統合後も子どもたちのふるさとや地域は存続します。蒲江翔南学園でも行われているように、総合的な学習の時間などで地域の浦々に帰って学ぶ「ふるさと学習」を通じて、地域の伝統や文化を大切にする活動を引き継いでいきたいと考えております。また、教育課程外におきましても、コミュニティ・スクールの中で地域の方や保護者を講師として招き、鶴中ソーランや地域の伝統文化を継承していくことが考えられます。他地区出身の子どもにとっても新しい文化に出会う学びの機会になると期待しております。
参加者	地域行事への参加について、鶴見の豊漁祭などで子どもたちがダンスを披露するような機会は継続されるのでしょうか。また、資料のデメリット（課題）への取組の中に「地域行事や地域学習などを通じて地域の方々と児童生徒が交流する機会を確保します」とありますが、この内容とコミュニティ・スクールの意味づけについて詳しく教えてください。
事務局	子どもたちが育ってきた地域を大切にする活動は、統合後も継続されるべきものと考えております。具体的にどのような形で参加するかは、統合後に地域・家庭・学校が一緒に考えていくことになります。また、コミュニティ・スクールは学校区を単位として、地域・家庭・学校が共通の目標を持って子どもたちをどう育てていくかを話し合い協働する仕組みですので、地域活動

	との連携もその中で深めていくことになります。
参加者	佐伯南中学校の部活動について伺います。現在、部活動の募集停止などの動きがあると聞いていますが、校長が変われば再開することもあるのでしょうか。また、今後市内の中学校全体で部活動を行わなくなるのでしょうか。
事務局	部活動の設置については学校長の判断となりますので、統合時に学校長がどのように判断するかによる部分がございます。なお、休日の部活動につきましては、市全体として地域クラブへの移行を進めており、教職員が土日に指導することはなくなっております。平日の活動や地域移行の形を含め、今後も検討が進められていきます。

（2）意見交換

※個人が特定されるおそれのある発言等については、個人情報保護の観点から、一部を編集・省略して掲載しています。

発言者	**発言内容**
参加者	地域の方数名に話を聞きましたが、「子どもの減少を考えると統合はやむを得ない」という意見が大半でした。しかし、高齢者が最も心配しているのは地域とのつながりです。松浦地区では音頭太鼓保存会を子どもたちが担っています。学校がなくなることで地域とのつながりが希薄にならないよう、学校にも積極的に地域と関わってほしいと思います。
事務局	地域と学校、そして子どもたちとの絆が希薄になるのではないかというご懸念につきましては、教育委員会としても極めて重要な課題であると受け止めております。むしろ今回の再編をカンフル剤として、地域と触れ合う機会を増やし、子どもたちが地域の方から褒められることで自己肯定感を高めるきっかけにしたいと考えております。コミュニティ・スクールを通じて地域との絆を深めてまいります。
参加者	鶴見と米水津は佐伯を支える大事な産業を担っている地域ですし、それを子どもたちにしっかり繋いでいってほしいという願いはみんな共通して持っていると思います。実際に子どもを複式学級で育ててきた経験からも、少人数ならではの良さは確実にありますし、市内の大きな学校の中にも、海が好き

	で海のことを学びたい、あるいは自然豊かな環境で学びたいという子どもたちがたくさんいるはずです。そうした受け皿があれば、市外・県外からでも「佐伯の教育を受けたい」と移住してくる人が出てくるのではないでしょうか。学校を一方的に統合してしまうのではなく、校区を撤廃して、子どもたちが行きたい学校を自由に選べるようにしてはどうでしょうか。もし鶴見から中心部へスクールバスを出すのであれば、その帰りの便で中心部から鶴見へ子どもたちを連れてくることだって考えられるはずです。子どもにお金をかけないで佐伯の未来はないと思います。数字や経費の削減ばかりに目を向けるのではなく、佐伯市の未来を創る子どもたちにこそ予算を惜しみなく投じるべきです。子どもがやりたいことを支えられる「こどもがまんなか」の佐伯市になってほしいと思います。
参加者	将来的に廃校となる旧町村の人口減少が加速する懸念について、市としてどのように想定されているのか見解を伺いたいです。
事務局	学校がなくなることによる地域の人口減少への懸念につきましては、私どもも常に深く受け止め、頭を悩ませている重要な課題でございます。今まさに学校に通っている子どもたちのためにも、可能な限り早期により良い教育環境を実現できないかと考え、一つの選択肢としてお示ししたのが今回の再編案でございます。
参加者	片道 1 時間の通学について安易に捉えられがちですが、過去、高校生であっても遠隔地から通学できず下宿を選択していた実態がある中で、小・中学生の子どもが 12 年間、毎日 1 時間かけて通学し続けることには無理があると考えます。また、教育の主権者は他でもない子どもたち自身です。当事者である子どもたちの意見を聞かないまま計画を進めることは決してあってはならず、早急に児童会や生徒会を通じて率直な意見を聴取し、その声を最優先に反映した計画づくりを進めていただきたいです。あわせて、中心部へ集めるだけではなく、例えば池船周辺から鶴見中学校へ通えば約 30 分で通学できるなど、周辺校を活用した「逆方向の通学・再編」という選択肢も含め、将来の人口推計を検証しながら柔軟に検討していただきたいです。
参加者	現在、授業における校区探検や職場体験、また、放課後クラブなどを通じて、児童・生徒と地域との関わりがとても強くなっており、子どもたちは鶴見のことが大好きに育っています。しかし、学校が再編されて遠方の佐伯南中や上堅田小へ通うようになると、鶴見との関わりが大幅に減少してしまう

	のではないかと非常に心配しております。冒頭のあいさつで教育長が「学校は地域に浮かぶ船」とおっしゃいましたが、学校がこの土地から失われることは、地域から光が消えてしまうことと同じです。吹小がなくなった時は、運動会はなくなり、子どもの声がなくなり、すごく寂しくなりました。少子化による再編はやむを得ない面があるにしても、子どもたちが「鶴見が好きだ」と思えるような取組を今後も継続していただきたいです。
参加者	灘小学校が上堅田小学校へ統合後、灘地区からは子どもの声が聞こえない、行事もない、「常に寂しい」という言葉を聞きます。大人数の学校に行って伸びる子もいれば、そうした環境に合わずに悩み、少人数だからこそ自分らしく成長できる子もいます。すべての子どもを一律にまとめるのではなく、小規模校を必要とする子どもたちの居場所や選択肢をしっかり残してほしいと思います。県内で統合を経験した学校の PTA 会長からも伺いましたが、今ある学校に別の地域が吸収される形だと、子どもの負担だけでなく親同士の一体感をつくるのが非常に難しいそうです。どうしても打ち解けられずに分かれてしまい、PTA に入らない保護者もいるそうです。統合するのであれば既存校への吸収ではなく、防災面や子どものことも考慮した、新しい学校を新設して全員でスタートする形にしてほしいです。
参加者	再編のデメリットとして、人口減少と過疎化の促進を真剣に考えていただきたいです。鶴見は元々高齢者が多く子どもが減っている中で、学校がなくなれば、若い人たちが通学に便利な校区へ引っ越してしまうのではないかと心配しております。若い人がいなくなれば過疎化は一気に進んでしまいます。人が減ってしまうと、今鶴見に唯一ある A コープのような生活の基盤までなくなってしまうのではないかと心配です。複式学級を解消するための基準も理解しますが、数字の都合だけでなく、子どもや地域に配慮し、まずは米水津と段階的に統合を進めるなど、柔軟な選択肢も検討していただきたいです。また、こうした意見交換会を 1 回限りで終わらせるのではなく、現場の生の声を吸い上げる対話の場を継続して設けていただきたいです。
参加者	子どもが楽しめる環境が整っておらず、「この地域で子育てをしてみたい」と思える環境づくりがなされていないと感じております。以前、団地の公園に関して市へ新しい公園の整備を要望した際にも、「その要望は通らない」「考えていない」という回答でした。現に今子どもが暮らし、未来を担う子どもたちがいるにもかかわらず、地域が再建できないような地区にしてしまっているのは、佐伯市なのではないでしょうか。

参加者	今日いろいろな意見を聞かせていただきましたが、本当に数字の面ばかりを見ているなという印象を受けました。教育委員会の皆さんも、もしご自身が私たちの立場だったらどう思うのかをぜひ想像していただきたいです。今日この会場で出た意見を、本当に大事にしていただきたいと思います。